

平成30年度第1回大仙市総合教育会議議事録

平成30年度第1回大仙市総合教育会議を平成31年2月15日（金）午後3時から大仙市役所大曲庁舎において開催した。

出席者

市長	老松博行
教育長	吉川正一
委員	風登森一
	鈴木直樹
	工藤浩一
	中島康
	高見文子

出席した関係職員

総務部長	舩谷祐幸
総務課長	福原勝人
教育指導部長	高野一志
生涯学習部長	安達成年
教育指導課長	築地高
生涯学習課長	佐藤正道
文化財保護課長	熊谷直栄
スポーツ振興課長	伊藤優俊
総合市民会館長	大河洋子
花火伝統文化継承資料館長	竹村宏之

事務局

教育総務課長	田口広龍
教育総務課副主幹	堀川あずさ

協議事項

- (1) 平成30年度の主な教育施策の概要と今後の教育施策について

教育総務課長

ただいまから、平成30年度第1回大仙市総合教育会議を開催いたします。協議に入りますまで、私から進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

はじめに、本日の会議の出席者について申し上げます。総合教育会議の構成員は、法律により、市長、教育長、教育委員会の委員となっております。

関係職員の出席者は、お手元に配付しております資料1ページの名簿のとおりであります。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、市長から挨拶をお願いいたします。

市長

本日は、平成30年度第1回大仙市総合教育会議を招集いたしましたところ、教育委員会の皆様には、お忙しい中、また、足下の悪い中、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

委員の皆様には、日頃から、本市教育行政の推進に対しまして特段の御理解と御協力をいただき、この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、先般、平成31年度の当初予算案を議会に内示するとともに、記者会見でも発表したところでありますが、普通交付税の縮減などによりまして、緊縮型のマイナス4.6パーセント、20億円余りも前の年を下回る形の予算となっております。

しかしながらそうした中で、教育費につきましては、大曲中学校水泳プール改築事業、大曲武道館改築事業などの大型事業もありまして、当初予算ベースでは30年度よりも増額になっているという状況であります。

今後、財政状況はますます厳しさを増すものと予想されておりますが、どのような厳しい財政状況にありましても、市民の皆様が住みよさを実感し、将来に夢と希望を持てるまちづくりを推進していかなければならないと強く思っているところであります。

これまで、教育委員会の皆様と連携を密にして様々な教育施策に取り組んできたところでありますが、今後も引き続き皆様とともに、より良い教育行政を推進してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議では、「平成30年度の主な教育施策の概要と今後の教育施策」につきまして、活発な意見交換をさせていただきたいと考えております。

皆様方から忌憚のない御意見を賜りますようお願いを申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育総務課長

ありがとうございました。

次に、協議に入りますが、これから先は、大仙市総合教育会議運営要綱第4条の規定により、市長から進行をお願いいたします。

市長

それでは、私から進めさせていただきます。

本日の協議事項は、1件であります。

「平成30年度の教育施策概要と今後の教育施策について」であります。皆様と意見交換させていただきたいと思っております。

まず、教育長から平成30年度の教育施策の概要につきまして、御説明をお願いしたいと思います。

教育長

それでは、私から「平成30年度の主な教育施策の概要」について、説明させていただきます。

お手元の資料の3ページを御覧ください。

まず、学校教育の分野からです。二つの事業を記載しております。

はじめに、「大仙ふるさと博士育成事業」についてであります。

この事業は、地域活性化に寄与できる子供の育成を目指し、キャリア教育及びふるさと教育の一環として実施しているもので、平成28年の夏から実施しています。児童生徒が市内の特色ある企業や農業施設、有形無形の文化財等を見学あるいは体験したり、地域貢献活動や地域行事等への参加活動など、その内容によってポイントを与え、ポイント数の累計数に応じて「大仙ふるさと博士」に認定しております。博士に認定された児童生徒には、認定証、バッジを贈って励みになるよう工夫しております。

昨年、このようなポケットブックも作成しております。また、4月までには、このマップ版も作成しまして、博士を目指して活用させていただきたいと思っております。

2月7日現在で、名誉博士が14人、上級150人、中級1,221人、初級が3,660人となっております。

次に、「学校生活支援員事業」であります。

この事業は、小・中学校において学校生活を送る上で、障がいをもつ児童生徒や外国人など様々な配慮が必要な児童生徒に対しまして学校生活支援員を配置し、個々の実情に応じたきめ細やかな生活支援を行うことにより教育環境の充実を図っているものであります。

平成30年度は、支援を要する児童生徒数が387人でありまして、学校生活支援員61人を配置できております。

なお、生活支援を必要とする児童生徒数の全体に占める割合は、少子化ではございますが年々増加傾向にあります。

続きまして、生涯学習の分野になります。

はじめに、「大仙市音楽祭」についてであります。

「みんなでつくる、みんなで楽しむ、みんなの音楽祭」をテーマに、音楽を通じた「まちづくり、ひとづくり、きずなづくり」をコンセプトとした市民参加型の音楽祭を2日間にわたって開催いたしました。

初日の11月10日には、一つ目の「企画公演」としまして、大仙市誕生とともに成長した市内の小中高生が、市民歌「夢、この大地」をテーマにふるさとへの思いを込めた演

奏会を行いました。

また、二つ目の「企画公演」として、公募で参加した市民と中学生が、得意な楽器で小音楽会を開催いたしました。

続いて、「市民のためのオーケストラ」と題し、一般市民向けに、東北初のプロ・オーケストラとして誕生し、活動している「山形交響楽団」のフルオーケストラ公演を楽しんでいただきました。

二日目の11月11日には、「0歳からのオーケストラ」と題しまして、赤ちゃんから鑑賞できるオーケストラや歌のお姉さんと一緒に歌ったり、楽器体験コーナーを設けて様々な音楽体験をしていただきました。

続いて、三つ目の「企画公演」としまして、地元で活躍する吹奏楽団体や合唱団体がコラボコンサートを行い、音楽祭のフィナーレ公演といたしました。

音楽祭2日間の合計来場者数は、延べ1,638人となっております。

ほかに、関連事業としまして、山形交響楽団の団員による楽器クリニックが開催され、市内の中高生152人が受講しております。

次に、「花火伝統文化継承資料館開設」についてであります。

大仙市花火産業構想の主要施策の一つであります「花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくり」の中心事業として、昨年8月5日にオープンいたしました。

「花火伝統文化継承エリア」では、花火に関する資料の収集・保存を行い、貴重な文化的財産として後世に継承するとともに、資料展示を通して来館者への花火文化の発信をしております。

「生涯学習エリア」では、芸術文化や共通の趣味などを通して人々が集う新たな学習拠点として組織づくりを支援し、生涯学習活動の振興に寄与しております。

1月末日現在で、この二つのエリアを合わせて3万9,220人が来館されております。

続きまして、4ページを御覧ください。

スポーツ振興の分野になります。

はじめに、「全国500歳野球大会」についてです。

この事業は、「野球に燃える親父たちの甲子園」をキャッチフレーズに、生涯スポーツとしての野球を楽しみながら、長寿社会の形成と併せて地域知名度の向上と地域の活性化を図るため開催しております。

第2回となる今年度は、県外21チーム、県内11チームの計32チームでトーナメント戦を行っております。

また、野球を生涯スポーツとして取り入れ、開催地周辺の観光や物産を融合させる「大仙市版スポーツツーリズム」としての取組も行っております。

次に、「スポーツ障害予防教室」についてであります。

秋田大学地方創生センターと連携しまして、超音波によるメディカルチェックやストレッチ、フォーム指導などを通して、小・中学生やその保護者・指導者が故障の原因となり得る要素を知るとともに、自身の身体ケアを意識するきっかけを提供するため開催いたしました。

まず、「少年野球投球障害予防教室」を、11月18日、12月24日、1月14日の3回開催し、166人とその保護者・指導者の参加がありました。

続いて、「少年少女バドミントン障害予防教室」を2月10日に開催しまして、26人とその保護者・指導者の参加がありました。

このスポーツ障害予防教室は、秋田大学大学院医学系研究科と大曲整形外科クリニックの皆さんに講師を務めていただいております。

奇しくも、今日の秋田魁新報に学童野球の球数制限の記事が載っております。今後も、子供のスポーツにおける健康管理について、努めていきたいと思っております。

続きまして、文化財保護の分野になります。

はじめに、「角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業」についてです。

この事業は、雄物川舟運の歴史を伝える「角間川の旧家群」を整備活用し、角間川地区の歴史と交流をキーワードとした地域活性化拠点エリアを整備するものであります。

本年度は、旧荒川家をリノベーションした管理棟の整備を行いました。

また、旧本郷家住宅の特別公開の期間を昨年より拡大して、計56日間の公開を行った結果、来場者は2,623人を数えました。

最後に、「旧池田氏庭園整備活用事業」についてです。

これまでは、初夏・秋季ごとに期間を定めた公開でございましたが、園地中心部の主な保存修理が完成しましたので、本年度から積雪期を除く常時公開を開催いたしました。

平成30年度の公開期間は、5月19日から11月18日までで、来園者は1万4,075人を数えました。前年度と比較しまして、10パーセント増となっており、近年の来園者の減少傾向に歯止めがかかったと思っております。

今後については、はなび・アム、角間川旧家群、古四王神社、払田柵跡等と連携して、文化観光の回遊性を高めていく方針であります。以上であります。

市長

はい、ありがとうございます。今、30年度の主な特徴的な事業の御説明がありましたけれども、皆様から、御感想や御意見をいただければと思います。

はじめに、風登委員からお願いいたします。

風登委員

ただいま教育長から御説明がありましたけれども、ここに載っている事業というのは、どれも自画自賛という感じがしますが、素晴らしいものばかりだと思っております。特に、大仙ふるさと博士育成事業は、費用対効果ではその最たる素晴らしい事業ではないかと思えますし、全国500歳野球大会であれば、花火以外で大仙市を全国に発信しているという点においては、非常に優れた事業の一つではないかと思っております。

私、この中で、はなび・アムのことについて少し考えたことをお話したいと思っております。リピーターを確保するための方策ということについての私見です。オープンして半年が過ぎ、本当に順調に来館者数が確保できていて喜ばしいことだと思うんですが、二年目になるとどうしてもペースを維持する、あるいは来館者数を増やすということになればいろんなことが要求されてくるんじゃないかと、私の経験からそう思います。リピーターを確保するために、どんなことが考えられるかということについていくつかちょっとお話したいと思います。先月の教育委員会定例会でも少し触れたことなので、重複すると思うんですが御了

承ください。

一つ目は、ミュージアムショップの設置です。私はこれまで、オープン前の1回も含めて3回訪問したんですけれども、お土産や花火関連グッズは、大曲駅の観光情報センターでお求めくださいと書かれていたんです。これは、来館者のサービスという点からは非常に残念なことだと思います。観光情報センターには、グッズもいろんなものがありましたので、来館者の動きなども十分把握した上で、適切な場所に一日も早くショップを設置してもらえればと思います。合わせて、カフェや喫茶室、あるいは休憩室でもいいと思うんですが、そういう所もやはり必要なのかなと。ただ、農業科学館や県立博物館もそうなんですけれども、ただの「休憩室」となると余り利用してくれないんです。ですから、そこに何か工夫が必要だということになると思います。来館者に対するサービスという点から、少してこ入れが必要になるのかなと考えました。

二つ目は、子供をターゲットにしないと、リピーターは増えていかないんじゃないかなと。子供が興味、関心を持つ、いわゆる企画コーナー展でいいと思います。全体を模様替えするとなるとお金と労力が必要でしょうから、ある部分にその子供を引きつけるような企画を持ってくればいいと思います。子供の来るところには、当然御両親、場合によっては、おじいちゃんやおばあちゃんも来ますので。市民も秋田県民もなんですが、1回来て、その後何も変わり映えしていなければもう十分という人が非常に多いと思いますので、こういうのは是非設置してほしいと思います。ただ、学芸員がいないということは、定例会で花火伝統文化継承資料館長からもお聴きしましたが、市内には4つの花火業者がありますし、場合によっては、県職員の中に学芸員が何人かいらっしゃるわけですから、いろんなヒントを与えてもらう、指導をいただくという形をとればいいと思います。予算の面で心配ということであれば、「ガバメントクラウドファンディング」などで成果を上げている地方自治体もいくつかあるようですので、そういう手立てもいいんじゃないかなと思います。それから、PRについてなんですけれども、どのようにすれば宣伝になるのかと考えたとき、やはり、若者を誘う手段としてはインスタグラムがいいのかなと。そういうインスタグラム映えするようなもの、はなび・アムは眺望も素晴らしいですし、創作工房やシアターなんかもインスタグラムでうまく発信すればいいと思います。大仙市内にも著名な方がいらっしゃいますので。特に夏は、全国からたくさんの方がいらっしゃるの、クラウドファンディングも含めてうまく動くんじゃないかなと考えてみました。いろんなことの制約があるかと思うんですが、とても素晴らしい施設ですので、スタッフの皆さんには是非工夫を凝らして頑張ってくださいと思います。以上です。

市長

ありがとうございました。

御指摘、全て私も同感です。秋田魁新報の去年の大仙市5大ニュースに「はなび・アム」が入ったんですけれども、最後のコメントにも「お土産を買うところ」、「何か軽食を食べるところ」、そういうものがあれば更に良くなると記載されておりましたので、当然、私たちも考えています。お土産買を買うところ、軽食を食べたり休憩するスペースは、絶対必要だと思っております。できれば、それは民活でお願いしたいと話をしてきました。場所とか建物等は貸すことができると思っています。別館の活用の仕方によっては、その

ような形で使えると考えています。あと、情報発信はもちろんそのとおりで、いろんな手段を使ってやるべきだと思っております。また、リピーターを増やすためには、やはり映像も必要です。ただ、お金がかかるのでしょっちゅう変えることもできないですが。今の映像は、どちらかといえば芸術作品みたいに仕上がっていますがけれども、今度の作品は、実際に「大曲の花火」を裏側から撮ったり、花火師さんたちが朝から何をやっているのか観覧席にいると見るできないような映像もセットして見ていただく、それがやはり大事なところじゃないかなと思います。特に大曲の花火は、28人の花火師を大事にしている花火大会だと思っておりますので、28人の花火師さんたちがどのように朝から準備され、終わった後どんな雰囲気になっているのか、それを合わせて今回作っています。4月以降には、その作品が公開できるんじゃないかと思っております。映像を替えたり、あと、先ほど御指摘をいただきましたが、大人にも子供にも人気のある花火創作工房コーナーもありますので、是非、リピーターの確保ということで頑張っていきたいと思っております。企画展示も、今替えたんですよ。

花火伝統文化継承資料館長

はい。

市長

それも、はなび・アムの職員が全てやるのではなくて、専門の方に企画展示の仕方を指導していただきながら、きちんとした展示をしなければいけないと思います。リピーターの確保、それからショップ、カフェ、休憩室は、是非、平成31年度、花火産業構想の第2期構想の中にも込めながら実現していきたいと思っております。観光物産協会さんでも、自分たちが頑張れるのであれば頑張りたいと言っていたいておりますので、いろんなやり方で更に盛り上げていければと思っております。大変ありがとうございました。

続きまして、鈴木委員、お願いいたします。

鈴木委員

私も風登委員と同じように自画自賛になってしまうんですが、たくさんの事業がありますが、本当によくできた事業を年間を通してやっているのと改めて感心する部分であります。残念だったのは、山形交響楽団の演奏会に行きたかったんですがけれども、都合で行けなくて。本当にこれは楽しみだったんですが。こういう良い機会を一年中、各市民会館だけではなく、各公民館も演奏会場になっていただいているので、文化の薫る大曲を昔から継続しているんだという思いを強く感じているところです。

500歳野球についてなんですけれども、大変盛り上がって良かったと思っております。これが将来どのようになるのかというのは、いろんな盛り上がり方によって違ってくるかもしれないけれども、甲子園という言葉が出てくるので、1都道府県から1チームずつ出てくると大変面白い大会なのかなと思っております。そうなると、今のチーム数よりも多くなるでしょうし、短い期間で運営するとなるとやり方も変わってくるかもしれない。その時には、仙北市や美郷町の応援もいただきながら、「500歳野球 秋田県ここにあり」みたいなそういう形になっていけばいいなと考えております。

それから、池田氏庭園も通年で見られるようになって、本当に良かったと思います。観光客の方がたくさんいて、庭を見て喜んでる姿を何回も見るとはいいんですけども、たまたま聞こえてきた会話に、「案内してくれる人がそちらにはいて、こちらにはいないのか。」というのがありました。そういう突然来た来園者には案内人が付かない場合がありますので、これもちよっと改善しなければいけないのかなと思いました。池田家顕彰会の方たちは、いつでも応援したいということを知ったことがありますので、そういう連携をもっていかなければいけないのかなと思っております。

仙北市には、500万人とか600万人という観光客が来ていますので、目と鼻の先に来ているこの観光客を引き込むのは、本当に喫緊の課題でないかなと思います。商工会議所や商工会、観光物産協会や文化財保護協会などそういった各種団体と連携をとって、一気に盛り上げていければいいなと思いました。また、先ほどはなび・アムのこともありましたが、特に角間川の御三家については期待大なので、そういう全市を挙げた各組織で連携を取れるようなトップ同士の情報交換、そういうこともあればいいなと思ったところでした。以上です。

市長

ありがとうございました。

音楽祭は、こういう形になって2回目ということで、まだ定着しているとはいえないのかなと思っております。取組はこれでいいんじゃないかと思うんですが、実際に聴きに来る人がもっと増えてくれればいいなと思ってます。

それから、500歳野球大会ですが、当然「甲子園」とついているので、47都道府県代表が出てくれるような形になるのはねらっていますけれども、その時は、石井浩郎参議院議員が賜杯を用意してくれるということでした。今、内閣総理大臣杯があるので、47都道府県が出そろったときは、当然、それくらいないということ、頑張ってくれるということでした。ただ、野球の盛んなところ、盛んでないところ、それからやり方が少し違う場合もあるので、普及をしながら参加チームを増やしていくということになるので時間がかかると思います。

いずれそういう形を目指していくということで、これは決して諦めてはいないということですのでいいですね。

スポーツ振興課長

はい。

市長

池田氏庭園は、通年という形で公開していますが、通年といってもちよっと残念なのは、5月から11月なのでもっと公開ができれば思うんですが。冬の公開は駄目なのですか。

文化財保護課長

積雪がやはり1メートルくらいありますので、歩けない状況です。

市長

除雪はすると思うんですが。

文化財保護課長

庭園の中には、除雪機も入れないですし、雪で景色が見えなくなってしまいます。

市長

見える景色が見えなくなってしまうんですね。雪見灯籠は、雪が少ないときに見るものなんですね。

文化財保護課長

初雪の頃が良いと思います。

市長

徐々にでもいいので、環境を整備して期間を増やしていけたらいいと思います。案内人については、顕彰会の皆さんといろいろと相談をして頑張っていることと思います。

それから、最後の観光客についてですが、隣の仙北市には多数のお客さんが来ています。その一部は大仙市にも来ていると思いますがほとんどが素通りで、別のところに行くようです。それは、まだまだ魅力がないということでしょうから、魅力をつくりPRしたいと思います。今は、はなび・アムを見て旧池田氏庭園に行くというパターン、またその逆のパターンもあるかもしれません。そこから、今度は秀よしさんの酒蔵を見たりといった観光ルートみたいなものをきちんとPRしていくことが必要になると思います。例えば、JRの大曲駅で降りた後、何を利用してその場所に行くかなど。今、観光交流課にJR東日本秋田支社から人事交流で来ている人がいますので、JRを利用してできること、それからバスなどの手段で回るような方法もあるはずですので、そういったサービスもセットしながら組んでいただくということで頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、工藤委員、お願いいたします。

工藤委員

風登委員からもお話がありましたが、ふるさと博士育成事業をはじめ、ここに載っている全ての事業についてですが、やはり勢いのある事業だと思っておりますし、関心の高いものだというように考えております。この関心の高いうちに、1回市民の皆さんに参加していただき、更にそれを広げていただくとなると、やはり発信力、SNSの活用ということであると思います。その部分で、子供が関係している保護者、家族全員がおそらくそのSNSに登録することだろうと思っておりますので、発進力というのは絶大なものがあると思います。ただ、気にしなければいけない部分も多々あると思いますので、その辺をどのようにクリアしながら進めていくかは検討が必要になると思いますが、せっかく良い事業がありますので。市長も、今、500歳野球に関して47チームというすごく夢のある

お話をしていただきましたので、そういったことをどんどん打ち出しながらいろんな方向から発進できないかと思っているところです。

ふるさと博士育成事業については、私も2回ほど受け入れる側としてやらせていただきましたが、勢いがあります。角間川の旧荒川家にも文化財保護課長のガイドで回らせていただきましたが、非常に楽しく回ることができました。ですので、発進力というところで検討を重ねながら進めていただきたいと思います。以上です。

市長

ありがとうございました。

情報の発信力、魅力の発進力が大事というのは私も考えておまして、去年の4月に広報公聴課を新しく独立させてつくりました。広報広聴という昔からの名前が使われております。実は、シティプロモーションを担当していただくということで、これは市だけではできない場合も多々ありますが、市民の皆さんとそしていろんな技術や情報をお持ちの方もいらっしゃいますので一緒になって取り組みたいと思います。今までの広報だけではなくSNSなどいろんなものを使って、市内外や国内外まで発信する、そういう担当部署の広報広聴課をつくりました。一年目、ちょっと面食らっている部分があったみたいですが、いずれ二年目になると、いろんな意味で情報発信をしてくれるんじゃないかと思っています。市職員の中でもSNSやそういうものに優れている人を集めました。やはり市の職員なので、プロの力もお借りながらシティプロモーションを頑張っていくということでもあります。

ありがとうございます。

次に、中島委員、お願いいたします。

中島委員

500歳野球大会についてですけれども、全国からチームが集まるということで大仙市の宣伝にもなるでしょうし、素晴らしい事業だと思います。開催時期が7月中旬ということで、暑くなりがちで熱中症も発症しやすい時期でもありますので、熱中症に対する備えを十分にする必要がありますと思います。

次に、スポーツ障害予防教室についてですけれども、成長期の児童生徒がスポーツを行う上で、整形外科の医療スタッフが教室を開催していただいたということでとても良かったと思っています。また、知り合いの子も参加しましたがけれども、とても勉強になった、また次の機会があれば是非参加してみたいと言っていました。以上です。

市長

まず、500歳野球の全国大会は7月の半ば頃ということで、1回目のときの開会式が長く、また、炎天下での開会式だったので、おっしゃるとおり熱中症をととても心配しました。そこで2回目は、開会式を前日のレセプションの中で行い、当日は、子供たちの始球式の後、試合を始めることにしました。炎天下の開会式はやめて、すぐに試合をやれるような形ということで。また、試合中は暑いので気を付けていただくようにと選手の皆さんには呼びかけております。

開会式の開催方法については、賛成の人も反対の人もおまして。前日夜のレセプションはレセプションでいいんだけど、開会式もやってほしいというお話をされる方もいらっしやいましたが、暑さ対策、熱中症対策ということでお話をさせていただいております。いずれ、この期間でいかざるを得ないですね。全県大会が9月ということで、ほかの行事と重ならないように7月のこの時期ということになったんですね。

スポーツ振興課長

はい。ちょうどこの期間が、各都道府県の高校野球甲子園予選の時期で、ここだけが空いているということです。非常に暑い時期、梅雨の時期ということで運営についてはちょっと難しいこともありますが、この時期でやっていきたいと思っております。

市長

皆さんの熱中症対策については、あらかじめ諸注意をお願いしているということですね。

スポーツ振興課長

はい。

市長

スポーツ障害予防教室は、新たに始まったんですか。

スポーツ振興課長

今年から始まりました。

市長

本当に良い取組だと思えます。今まで、若干この分野が欠けていたのかなと改めて思いました。是非充実させていただきたいと思えます。

ありがとうございました。

続きまして、高見委員、お願いいたします。

高見委員

大仙市音楽祭についてお話をさせていただきます。行きたいと思ったんですが、他の用事があって1回目も2回目も行けないでしまいました。土日しかなくて行けなかったという人のことも聞いています。芸術の秋という考えもあると思うんですが、もしかしたら開催の時期を移してあげることによって、自分も含めてなんですけども、行きたいけれども行けなかったという人も行けるようになるんじゃないかと思いました。

「0歳からのオーケストラ」で518人が参加したとありますが、小さい子供を連れてでも聴けるという行事が少ないと思うので、幼いお子さんを連れのお母さんたちにとっては、すごく有り難いと思えます。自分のことを振り返っても有り難いと思えます。

それから少し話は違いますが、大仙市は子育てに優しいという話をよく聞きます。大仙市に住んでいるときは余り感じなかったけれども、他に引っ越してから大仙市のサービス

は良かったと子育て最中のお母さんたちから話を聞きましたので、そういう視点からもこの数字を見て、小さいお子さんのお母さん、お父さんたちにとっては有り難いのかなと思いました。なので、やはり開催時期をちょっとずらすことで減った分も増えるのかなと思いました。いろんな方面から資料などを取り寄せて、日にちを検討していただければと思います。

次に、文化財保護の分野ですけれども、旧池田氏庭園や角間川の御三家には私も教育委員会に関わるようになってから行くようになりました。その前は、分かってはいたんですが、市民としてその良さに気付かなくて残念だったと思いました。

やはり外に発信するためには、まず、自分たち市民もその良さを知ってから外に発信し、こんなに良いところがあるんだと知ってもらうのが大事だと思いました。大曲駅の中の花火グッズを売っているところにも、良いものがたくさん置いてました。なので、自分たちが自分たちの良さに気付いていない人が、まだたくさんいるんじゃないかなと思います。ふるさと博士も、結局、まず自分たちの良さを知ってから発信するというので、もしかしたら大人たちも一緒に、市民も良さを知ってから外へ紹介するのも大事だと思いました。

続いて案内人の話ですけれど、旧池田氏庭園に友達と一緒に行って、その足で美郷町の坂本東嶽邸にも行ってみました。そしたら、そこにいた方がすごく良く説明をしてくれて。美郷の人ってそんなによく知っているんですかと言ったら、みんな坂本邸のことはよく知っていますよという答えでした。もしかしたら、案内人のボランティアの人については、眠っている先輩たちや分かっているんだけど家にいる人など、そういった潜在の人たちの発掘をするのもいいのかなと思いました。また、幼稚な考えかもしれませんが、ふるさと博士みたいに大人にもポイントを与えて、市民みんなを巻き込んで先輩たちの話を聞いてみたらどうかと思いました。

市長

ありがとうございました。

大人の場合は、よくあるスタンプラリーという感じになりますね。音楽祭の開催時期は、いろいろ検討してこの時期にしたと思いますが、課題にさせていただきます。それから文化財保護の関係ですが、特に大仙市は、文化財や史跡名勝が多いところだと思っており、これは大仙市の強みだと思っております。それをまず市民の皆さんから分かってもらわないといけないと思います。市民の皆さんも、自分の住んでいる旧市町村のことはよく分かるんですが、隣の町のことは、まだまだ分かっていないところがあるので、今後、PRしていきたいと思います。また、今、「地域の魅力再発見事業」ということで、地域の皆さんと一緒に自分たちの地域の魅力、強みは何か、そのために今何をやらなければいけないのかを相談しながら進めていただいている事業もあります。まずは、市民の皆さんから分かっていたら、そして、内外に発信していくということになると思います。おっしゃるとおりだと思います。

観光情報センターは、観光物産協会で頑張っただけでそのような形でやっていただいておりますが、結構、品ぞろえが良くなってきたと思います。ただ、奥のソファが必要なのかと思いますので、そういうところの見直しをしたいと感じております。最初は、いろんな考え方があって用意しましたけれども、実際の使われ方は自分たちが期待した使われ方とは

違うみたいなので、見直ししていかなければいけないと思います。大変ありがとうございました。

市長

最後に、教育長からお願いします。

教育長

本日は、委員の皆様には、お忙しいところありがとうございました。普段から委員の皆様には、市民目線、あるいは子供目線からの御意見をいただいております。発信という点では、子供たちも自分たちの地域を知るという活動をしております。そして、大仙市のPRパンフレットを自分たちで作成して、修学旅行で活動を行ってきたりもしております。SNSは子供たちには難しいでしょうが、我々はそういったものも考えていかなければいけないと思っております。

また、この前テレビでやっておりましたが、高知市では歩いている人に対して「困ったことはありませんか」と言うおせっかいなおばちゃんたちがたくさんいるそうです。そういった市民が関わっていくような仕掛けを、教育委員会でもできる範囲で行えればと思います。

大仙市にはいろんな財産の点があるわけですが、来年度は、その点を線にしていきたいと思っております。これは、ハード面での線もそうですが、いろんな機関、団体との更なる連携での線でもあります。これがいずれ、いろんな観光面も含めた素晴らしい地域づくりになっていくのではないかと思います。今、少しずつ作りつつありまして、文化財保護関係では、文化財保護課長を中心に点を線にしていこうという取組にあるようです。ほかにも、いろんな生涯学習施設がありますので、これに子供たちも巻き込んで、市民も巻き込んで、市民が自信をもって「大仙市にはこんなに素晴らしいところがあるんですよ。」と他から来た人に言えるような市民、子供たちをつくっていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

市長

ありがとうございました。

ふるさと博士育成事業は、本当に大事な事業だと思っています。真っ先に「地域活性化に寄与できる子どもの育成」とありますが、子供のときから地域活性化を意識して、地域活性化に寄与するのはもしかすると大人になってからかもしれません、子供たちがいることで元気をもらっている大人の方々、地域の皆さんもいます。今後、全員名誉博士になってしまうかもしれませんが、是非、充実して参加者が多くなれば良いなと思っております。また、大仙市の将来のことを考えたときに、大事な事業、取組であるという感じがしています。是非、これは良い意味で見直ししても結構ですので続けていただければと思います。教育長が就任してすぐ発案された事業であると認識しておりますけれども、本当に良い事業を始めていただいたと思っております。

大仙市音楽祭ですが、市民の皆さんから参加していただくのはもちろん良いことなんです、自己満足の世界になってしまうと困ると思います。みんなで参加して盛り上げよう

ということでやってくれば良いのですが、ただの自己満足で終わってしまうことのないように気を付けてやっていただければと思います。

先ほど、高見委員もおっしゃっていただきましたが、「0歳からのオーケストラ」これは、去年も今年も来場者が多かったみたいで。その前の楽器体験コーナーも、こんなに大仙市に子供たちがいたんだというくらいたくさん来てくださっていて、私も驚いた記憶があります。是非ここは大事なところで、充実させてやっていただければと思います。子供たちが騒ぐのも音楽なんだ、大丈夫なんだという気持ちでやってくれているので、本当に素晴らしいと思いました。

直接この会議に関係ないんですが、大仙市では国内外の交流を進めております。明後日から台湾にも行きます。

国内では、神奈川県座間市、宮崎県宮崎市、昔でいう姉妹都市です。今、岩手県宮古市ともそれを前提としたお付き合いをさせていただいております。それから、福島県の須賀川というところとも少し交流が始まろうとしています。そこは、座間市と三角関係になるような形です。国内はそういったところです。

国外では、刈和野の大綱引きが縁で、韓国の唐津市と交流を行っています。また、今度、台湾の新北市という台北市の周りをぐるっと囲んでいる市ですけれども、そこでの交流も進めようとしています。人口は400万人くらいで、台北が250万人前後ですので、台北より大きい市になりました。新北市の中和区、昔は中和市という市でしたけれども、その青年会議所と大曲青年会議所が姉妹青年会議所となってちょうど30年になるということで、4月には向こうから中和国際青年商會の皆さんが来られて、こちらで30年の式典をやるということでした。また、8月には、中和区で30周年の記念式典をやるということになっております。その時に、相手が良いければですが、交流するという協定を結びませんかと呼びかけて実現できるようになればいいと思っています。実は、明後日から行くのはその前段で、選挙で新北市長も代わり、中和区長も代わったというので、最初から組み立てる部分もありましたので。明後日から行くのは総勢25人で、議員が11人、職員が私を含め5人、商工会議所が1人、青年会議所の関係者がOBも含めて5人、観光物産協会が1人、太田の火まつりの実行委員長と副委員長の2人です。これは、向こうでも大きなランタンまつり、フェスタがありまして、それに太田の火まつりの紙風船も参加させていただきます。これは、3回目ですよけれども、このことも合わせてやってきます。そういう交流が進んでいくと、将来の担い手ということで子供たちの交流ということになり、それについては相手ももちろん賛成してくれます。当然、安全確保でやらないといけないんですが。そして、その延長線上にあるのが修学旅行です。交流が始まって、今度は、学校同士の交流になると思うんですが、これは仙北市が得意な形でやっております。行政の交流経験はないんだけど、学校同士を中心にやっている、それから、湖同士、温泉同士のというのが仙北市のやり方です。今すぐということではないんですが、将来的には、交流の延長線上にはそういったこともあるんじゃないかと思っています。お互いに治安や安全が確保されなければいけないのですが。子供たちの交流というのは、誰でも賛成してくれると考えていますので、是非、教育委員会でも話題にさせていただきたいと思います。今、宮崎との交流は、夏にこちらの中学生在が向こうに行ってサーフィンをしに来る、冬は、宮崎の子供たちがこちらに来てスキーをやる、そういった交流をしています。そうした交

流の延長線上に、もしかしたらあるかもしれません。いずれ、いろいろと地域間交流、国際交流などがある中で、子供たちの交流ということをこれから更に充実していくこともできるかなと思っております。

もう一つ、文化財保護法が改正になって、文化財保護について教育委員会でなくても市長部局でもできるということでしたけれども、私個人の考えとしては特に支障がないと思っておりますので、今までどおり教育委員会で文化財保護を担当していただければと思っております。法律が改正になって市長部局でもできるから換えるというのではないと、私個人的には思っております。今現在、余り支障がないと思っておりますし、保護と活用と両方の面で考えていければと思っております。大きい組織なので、いろいろなことがあるかもしれませんが。

吉川教育長

ただ、観光材料として文化財を使っていくとなれば、市長部局と連携していかなければいけないと思います。

市長

活用という面では、当然観光資源であったりいろんな資源になり得ることなんで、そうだとすれば観光と一緒に市長部局でやった方が良いというような議論は出てくるかもしれませんが。県は「観光文化スポーツ部」というように、観光と文化、スポーツをまさにそうやっています。スポーツの方は、ブラウブリッツやノーザンハピネッツ、ノーザンブレックスなど地域を活性化するという知事の強い意向で知事部局になったと思っております。これからいろんなことを進める上で、市長部局にあった方がやりやすい、どうしても市長部局と一緒にやらなければいけない部分が多くなったのでというのであれば、当然、みなさんの意見を尊重したいと思っておりますので、その辺を踏まえて、今後精査していただければと思います。保護だけだとすれば、教育委員会で今までももちろんやってきたと思いますが、活用する場合に市長部局と一緒にやっていった方が良いという意見があるかもしれませんが。平成23年に組織機構を見直しするとき、生涯学習を市長部局に動かそうとしました。私が総務部長のときですけれども。それを説明したところ、市議会議員の方の同意を得ることができませんでした。スポーツ振興と生涯学習だったと思いますが、市議会議員の方からは、まだ時期尚早ということでした。法律も改正になり、世の中も変わってきていますので、そういうこともできるようになってきたのかなと思います。問題意識が出ないうちは換える必要はないと思いますが、いずれ教育委員会でお話をいただければと思います。私からは、以上です。

皆さんから、ほかにございませんでしょうか。

鈴木委員

工藤委員が、先ほど良いことをおっしゃったと思いました。SNSがすごい情報発信力があるということをお話しされましたけれども、緊縮財政の中で、是非、費用対効果の高い道具として、Wi-Fiの設置をお願いしたいと思いました。観光地を目指すのであれば、適当な場所にWi-Fiがあることは効果絶大だと思います。

市長

旧池田氏庭園には、Wi-Fiがありますよね。

文化財保護課長

あります。

市長

何か所かにはつけているんですが全ての所にあるというわけではないので、まだまだ足りないということですね。観光地、インバウンドで来られた方がやはりWi-Fiがないと「なんだ」という感じになっているというのは私も感じておりますので、これも検討させていただきます。

風登委員

この資料をいただいたときに、最後の旧池田氏庭園のところで文化財保護課長が温めている文言が載っているなと思ったんです。昨年11月、「仙北地域の未来を語る会」というところで講演されているのを聴いていたんですけれども、具体性を持たせたいんだな、もっともだなと思いました。いろいろ話を聴いていて、やはり観光の有力資源は市内にもたくさんあると思うんです。先ほど鈴木委員がおっしゃっていましたが、角館駅周辺と大曲駅周辺の大きな違いは、角館駅の前には立派な観光案内所があって、いろんなパンフレットやグッズがあって。まずそこに入ると、大体どういうところが良いスポット、ポイントになるのかが分かります。では、大曲駅前はどうなのかといったときに、観光物産協会がどこにあるのか市民がどれだけ知っているかとなると、ほとんど知らないんじゃないかなど。情報センターも2階にあるんですけれどもなかなか入りづらいですよ。なので、そういうところで大きな差が出ているような気がします。また、いろいろパンフレットやポスターを作っているんだけど、余り目に付かない、押しが足りない、そういうのが大仙のちょっと弱いところかなど、今、考えました。あと、しっかりした観光案内所が目指すところにあるのかとか。レンタルサイクルなんかは全くないですし、バスだって、例えば払田柵に行くとしても一日4、5本しかないなど。適当に帰ろうと思っても、適当な時間のものがない。タクシーの運転手の方も払田柵なら知っているんでしょうけど、「どこそこに行きたい。」と言っても、「そこはどこですか。」と言われたということなどちょっと聞いたりもしました。真昼岳に登ったときに、山頂で県外の人が駅から歩いたという話をしていて。結構見るところがいっぱいあるのに、大曲の駅を降りても何も発信されてませんよねと言われて、ああそうなんだと思いました。我々市民は、文化財や観光スポットも含めてよく知らないなと感じました。大人たちは「何もないもんな。」と言ってしまうので、先ほどシティプロモーションの話がありましたが、やはりその意識改革として何か仕掛けをしていかないといけないのかなどと思いました。まず、盛り上げようとする気運というか、いろんな音楽祭であっても何でも期間限定なので、極端な話、終わってしまうとゴーストタウン化したような状況になります。花火だってそうです。そこのところを、いろいろアイデアを出し合わないといけないのかなどと思います。単発ではいろんな良いことをやっているんだけど、「音楽祭」と「稔りフェア」などうまく組み合わせてやらな

いと人は集まってくれないという感じが話を聴いていてしました。

市長

貴重な御意見、ありがとうございました。ほかに、ございませんか。

各委員（なし）

市長

いろいろなお話が出ましたので、更にこの後検討を重ねてまいりたいと思います。ありがとうございました。

それでは、これをもちまして平成30年度第1回大仙市総合教育会議を終了させていただきます。大変ありがとうございました。